新板
異形仙人絵本
下
32

○唐の廣真ハ嚴別の人なり嫁して後病をうく道人薬をあたへてのましむるに其病いゆるといへども、廣真とよびて是れハ三仙人のなかまのく海蟾よりきたりてちいさき蝦の背にうちのりて海をわたりまた名を劉海蟾とよんで仙人となりけりとぞ

唐廣真

○劉女ハ汀州ちやうあんがむすめ宋の雍熙の初九才にして仙人と道をとくをきく嫁せんするをいとふある時まどより白鶴とびきたり劉女これにのりて仙人となりしとぞ

○劉玄英ハ廣陵の人なり海蟾子と号す燕の王りうしゆくわうに仕ふある時道人金銭一文をたまごとそのうへに鷄卵をつみかさねこれをりんくわやうしと云道人のいはく人ハ栄禄にまつはる事これよりあやうしと悟て太極を悟道斉寿と号すのちにあそぶ所を知らずとも

亀鶴斉寿

○曹國舅ハ宋の曹太后の弟なり
その弟人をころし法度をそむくを
はぢとおもひ山にいりて
かくれさとり道人
あり舅にとふて
いはく子ハ何をやしなふ
舅ハ何をやしなへて云り
道曰道いづくにかある
舅天をさす曰天ハ
いづくにありや舅心をさす
二人道人笑ていはく
心即天天即道
本来の面目を知給へり
舅終にまよひて仙
境に入けり

○羅子房父の
名ハ中虚子と号
す玄宗の開元
中に父子ともに
修行して道をえ
じゆしてよく
奇妙を行くし
たりこゝろより
舟にのりて水
うへ枝の上へ
よりひかりて
と雲にのりて
いづくともなく
さりけり

○呉猛あざなハ世雲よくやうの人なり呉に仕て丁義が神方をならひ道術をよく時にはかる大風吹ぞ符を屋のうへになげてバ風すなはちやむ白鹿車にのりて白羽扇を持くゑをわつぎてまさに昇天すのぢる宋の政和中に神烈真人と号す

○曹仙媼いづミのある人といふ事をしらずつねに幼女とあそび犬をつれて波のうへをあゆみすとぶ事じ又ハ風にのりておちうをとけるすなはちをひらり東岸の石中に入て見えずなりある人廟をたてゝまつりけるとなり

○徐則(じよそく)ハとうかい
たんの人なりしを
けうかうして道を
んぜしゆく天(てん)
台山(たいさん)にのぼりて
めいかくとして道
をまなびして
白雲のゆく
みちをたづねる
久し隋(ずい)の煬帝(やうだい)
の時これめし經(けい)
書(しよ)道法(だうほう)すなより
のかして天台
山のおくに入く
仙道をおこなひ
てこなびいで

○孫傳(そんでん)ハ河東(かとう)
の人なりおさなくて
書(しよ)をよむ草木(さうもく)よ
をのびるとおさ
じむる中にゆけ
ども夜をぬらさば
ものやまひとなえ
てられどもうすと
いえやまひいゆ
山のおくかん石(せき)の
中へもぐりこも
事わかのあらず
こくへ入せぬと
いかりかし後に
林慮山(りんろさん)にのく
仙となれり

○裴航ハ唐乃
長慶の比の人なり
ある时みちをゆくに
茅屋ありうつくしき
をんなあり航乞て
のまんとすその母
にあふ其のつれ
に杵臼をあたへて
むすめとあはせん
といふ航つゐに杵臼を
もとめて藍橋に白兎
ありて薬をつく
とのくすりを
服しけれは
ともに仙
人となりにけり

○林霊素ハ永
嘉の人なり徽
宗帝大観二年
に天下ニ有道
の人をめしける
に霊素をもつて
をはしめとふ
らんてうれおせ
しく又の雲を
ふき金毛獅
子仙鶴その
中にあり

○費長房ハ
しよなんと云所
の人なり市中に
行に一人の老翁
有り市やむ時ハ
一つのつぼの中に
おどり入ぬ人是
と見る事なし
長房是を見て
酒をかうて入れハ
老翁よろこび
長房ともなひ
てつぼの中へとび
入酒くちんね
を好みて長房
とすゝめしと
かや

○黄初平ハ晋
の代の人なり
きんくハ山の石室
に四十余年こも
れりその兄の初
起と云人尋ね
きてもめぐりあひ
人にあひくはん
くらふにはりと
はなし行て見れハ
白石とみな羊
なりその石をさ
してかれハひつじ
かりて多りきか
く仙人となり
にけり

右此是形仙人流くしる菱川師宣と
ふし大和絵師書集しと絵本ふしと
あらんと首書を加へ令板行者也

元禄二巳年正月吉日

大傳馬町三丁目

鱗形屋開板